

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2775802214
法人名	有限会社 永世会
事業所名	グループホーム成寿苑
所在地	〒547-0043大阪市平野区平野東4丁目1番26号 (電話) 06-6791-7700

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年5月23日	評価確定日	平成20年6月23日

【情報提供票より】(平成20年4月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 6人, 非常勤 11人, 常勤換算 7.57人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,400 円	

(4) 利用者の概要(4月16日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	5名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82歳	最低 66歳	最高 98歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 喜多クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム成寿苑は古くからの庶民的な町平野の公園や運河のある住宅地に建っています。五つの生活を理念として謳い、笑顔・共生・安心と信頼・穏やかな心・個人の尊厳がキーポイントとなっています。地域のふれあいサロンに利用者はこぞって出かけ、お祭りのだんじりが立ち寄るなど積極的に地域とのかかわりが培われています。平野の昔話を語って頂き、菜園では野菜の育て方を、買い物に行けば道を教えられながら、利用者の知識が職員を助け、日々が穏やかに過ぎていきます。ホームは出来ることを重視し自立支援に力を注ぎ、車いすから立位への変化や、台所や庭の手入れの中で大きく変わって行かれた利用者の変化に勇気づけられています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、口腔ケアについての記録と実施を朝昼夕と取り組み改善に繋がっています。継続の中で、利用者は習慣となって自主的に歯磨きをされるようになっていきます。また、家族の意見の収集について、月一度の家族の来訪時に介護記録をもとに報告を行い、積極的に意見収集の努力をしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員が各自検討し管理者がまとめて記入をしています。自己評価を検討した結果、職員がケアに対する意味がより深く理解できたと考えられています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町会役員、地域包括、区の在宅サービスからケアマネジャー、入居者代表、入居者家族代表で2ヶ月に一度行ってきました。ホームの活動内容や予定、事故報告等をもとに意見交換を行い、運営に反映しています。ともすれば会議がマンネリ化し、もう少し方向性を変え更に充実した運営推進会議に向けて検討中です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に利用者の様子や、体調など日々の様子を伝えています。ほとんどの家族は度々来訪があり、意見や相談が出やすいよう、声かけを行っています。出てきた意見は家族にかえし、また運営推進会議においても改善報告を行っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加し、地域の祭りや盆踊りにも参加しています。地域サロンへの参加のみならず、入居者は社会福祉協議会が主宰する勉強会「今後の高齢者に向けて」にも参加し、地域行事にも積極的に関わり地域の老人会との交流を図っています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は、人と人とのつながりを大事にすることで、笑顔・共生・安心と信頼・穏やかな心・個人の尊厳がキーポイントとなっています。この地域におけるグループホームの位置づけについてよく理解していますが、理念方針への記載がなされていません。	○	地域密着の意味を職員は理解し、実際のケアに当たっていますが、さらに方針として追記されることによって、より明確になるよう期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は玄関やリビングにトールペイントされ掲げられ誰もが見ることができ、皆で唱和し確認しています。日々のケアの中で意識しつつケアにあたっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地元の祭りや盆踊りに積極的に参加しています。地域サロンの喫茶には利用者は誘い合わせて出かけており、また社会福祉協議会の高齢者向けの勉強会にも、入居者と共に意欲的に参加し地域の人々との交流が図られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価課題は会議にて検討、改善の取り組みがなされています。口腔ケアの改善の結果、今日では利用者自らが朝昼夕の口腔ケアを積極的に行い、職員は記録を取っています。自己評価については、職員各自が評価しユニットごとに管理者がまとめて作成しています。自己評価をすることで職員はケアの意義づけが十分理解できました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会役員、地域包括、区の在宅サービスからケアマネジャー、入居者代表、入居者家族代表で2ヶ月に一度行ってきました。ホームの活動内容や予定、事故報告等をもとに意見交換を行い、運営に反映しています。ともすれば会議がマンネリ化し、もう少し方向性を変え更に充実した推進会議に向けて検討中です。	○	推進会議の在り方を再考中ということですが、開かれたホーム作りという推進会議の趣旨からも、定期的な開催を期待します。

グループホーム成寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	課題解決に向けて高齢福祉課との連携はスムーズに行い、相談事は地域包括とのやり取りを中心に行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族はよくホームにいられており、その際利用者の日常などを報告しています。また家族は介護記録も見ており、預かり金の出納状況を確認し押印しています。利用者に変化がある場合などは電話で報告し、不定期ではあるがおたよりを郵送しています。	○	家族に向けてのお便りを毎月郵送したり、ホームページの立ち上げも計画に上がっています。一歩進んで利用者の様子がお便りに加味され、個別の様子が家族に届けられることを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や不満など声を聞くように努めています。また運営推進会議にも何でも声をかけてくださいと伝え、出てきた意見には改善の取り組み方法などの報告をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、なるべく異動の無いように心掛けています。管理者は直接職員と面談し、悩みや介護への思いの把握に努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や平野区の連絡会への参加など積極的に行われています。また苑内研修を毎月実施し全職員が周知し共有が図られています。	○	教育に対する管理者の積極的な思いがあり、全職員が研修の機会がありますが、実際の記録に不足する部分があります。せつかくの研修の機会を、記録として残されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市や平野区のグループホーム連絡会に加入し会議には積極的に参加しています。職員相互の研修に参加するなかで交流も行われ、ケアの実践に役立っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず本人、家族ともホームの見学をした上で入居に繋がっています。リビングで話されたり、お茶に誘ったり、時には体験入居や行事へのお誘いなどによって、馴染みの関わりを大事にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が人生の大先輩であることを心に、利用者の生活歴を舞台に、日々の教えが生きています。食事の準備、特に味付けや、菜園の草取りや世話、平野の昔話、買い物に行くのにお店の特徴や道順など、地域に住んでいるからこそその教えなどがあります。利用者同士が教え合い注意しながら時間が過ぎていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から思いの把握に努めています。言葉に出にくい人への配慮にも心を砕いています。「その方の立場に立つ」ことを大事にし、いつもと様子が違うなど変化を見落とさないようにし、申し送り時に伝え共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で、センター方式を用いてアセスメントを行い、ケアプランを作成しています。それに工夫を加え、誰が見ても分かりやすいように個別ケアを作り変えています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、カンファレンス、担当者会議を行い現状を評価し、原則として6か月に一度書き換えています。		

グループホーム成寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外食は利用者の思いに添って行われていません。フリーで余裕のある人員配置によって多くの要望にこたえることが出来ています。医療機関の受診で、家族が対応できない場合の送迎や立ち会いなどを行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携加算があり、往診にも応じられ、24時間対応が可能となっていて安心の体制があります。また、歯科医師の週1度の往診もなされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針をつくり説明しています。その時になれば話し合い、医療関係者、家族との連携、協力の下、ホームで看取る方針です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類はロッカーやキャビネットに保管され外から見えない配慮がなされています。カンファレンスの度に個人の誇りや尊厳を損ねることのないよう話し合われており、特に入浴時や排泄時の声かけには注意をしています。個人情報についての研修を行い職員に徹底するようにしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フリーの職員の余力で、希望に沿った支援が行われています。利用者の持てる力が発揮できるよう、さりげなく職員が声をかけてきた結果、今では利用者は、仲間同士で声を掛けあい調理準備や庭の草むしりなどに力を発揮し、支援の効果がホームの生活に表れています。		

グループホーム成寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることをケアのポイントとして考え力を入れていません。食材の買い出し、調理、後片付けと利用者が自分の役割と考え、積極的に関わっています。また職員はさりげなく利用者が作業しやすいように配慮し支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から夜間まで、希望に応じて入浴の支援がなされています。夜中や特別なこと以外は自由に入浴が可能です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や職歴など利用者の力が発揮されるよう配慮しています。庭いじりや菜園、犬の世話など楽しみと共に自信につながるように配慮し支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	区のふれあい喫茶には、利用者が誘い合って出かけ、地域との交流がなされ、商売をされていた利用者は、自身の店に出勤されることもあります。図書館の利用や馴染みの喫茶店に行くなど、利用者ごとの希望と役割にそって支援がなされています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を理解してはいますが、安全のため玄関は鍵をかけています。家族も同意し出たい希望にはそっており、また利用者によっては鍵を渡している人もいます。各ユニット入り口は施錠されていません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を年一回行っています。会議で話し合い、上に物を置かないなど工夫をしています。	○	夜間を想定する等、繰り返し避難訓練が行われることが期待されます。

グループホーム成寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、野菜中心で塩分を控えた食事作りを心がけています。また水分の目安を定め、確認しています。家庭菜園で採れた新鮮な野菜が食卓に上がることもあります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい玄関にはトールペイントで描かれた理念があり、リビングは窓からの光があふれています。リビングからミニ庭園に続く吐き出し窓は季節を身近に感じることができ、また菜園では収穫物があり、町中でありながら緑豊かな感じがあふれています。また手作りの作品が、そこそこに飾られ豊かな感じがあふれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のパイン材のチェストはホームが準備し、利用者、家族と共に居室作りをしています。写真や手作り作品など使い慣れたものや愛着のあるものを持参して頂き、自分らしくを心がけています。		